

南ア月報
(2017年11月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 各支部によるノミネーションの終了（与党 ANC 総裁選挙）

【外交】

- アウグスト(Manuel Domingo Augusto)アンゴラ外務大臣の南ア訪問
- ズマ (Jacob Zuma) 大統領のボツワナ訪問
- ロウレンソ (João Manuel Gonçalves Lourenço) アンゴラ大統領の南ア訪問
- ムナンガグワ次期ジンバブエ大統領のズマ南ア大統領への表敬訪問
- ズマ大統領の EU-AU サミット出席

【経済】

- インフレ率
- 景況感
- 製造業・鉱業生産高
- 自動車販売台数
- 金融政策：政策金利の据置
- 南ア信用格付の見直し

【広報・文化】

- 映画「杉原千畝」の上映会及び講演
- 第 24 回日本映画祭

【警備】

- クリスマスシーズンに向けた治安情勢
- 南ア国家警察長官の任命
- 新たな合成麻薬の南ア上陸

1 内政

- 各支部によるノミネーションの終了（与党 ANC 総裁選挙）

12 月に開催される ANC 総裁選挙に向けた各支部によるノミネーションが終了。「ラマポーザが 9 州のうち 6 州で優勢」等の報道も見受けられるが、全国大会に参加する ANC 代議員の数は州によって異なり、支持獲得州の数だけをもってラマポーザが優勢とは言えない状況である。

2 外交

- アウグスト(Manuel Domingo Augusto)アンゴラ外務大臣の南ア訪問

9 日、アウグスト・アンゴラ外務大臣が南アを訪問し、マシヤバネ南ア国際関係・協力大臣と会談した。会談では、両国間の貿易及び投資の拡大、人材交流の活性化、SADC（南部アフリカ開発共同体）を含む地域の課題、アフリカのアジェンダ促進を始めとするグローバルな課題への協力等が話し合われた。

●ズマ (Jacob Zuma) 大統領のボツワナ訪問

14日、ズマ南ア大統領はボツワナを訪問し、カーマ・ボツワナ大統領と第4回二国間委員会を開催した。両国は、運輸、貿易、投資、保健、教育、環境、水、科学技術、農業、司法、移民、エネルギー、金融、文化、安全保障、スポーツ等の分野で幅広く協力している。南アは、ボツワナの主要な貿易相手国の一つであり、多くの南ア企業がボツワナに進出している。

●ロウレンソ (João Manuel Gonçalves Lourenço) アンゴラ大統領の南ア訪問

ロウレンソ・アンゴラ大統領が23日～25日の日程で南アを国賓訪問し、ズマ南ア大統領と会談した。両大統領は、反アパルトヘイト闘争までさかのぼる両国間の政治、経済及び文化的な紐帯を確認した。両大統領は、南ア・アンゴラ二国間委員会(首脳)の創設、環境分野における両国間の協力推進、両国間のパスポートを有する国民に対する査証免除へ向けたガイドライン履行、警察・司法機関間における協定、税関分野における共助協定の署名に立ち会った。また、ロウレンソ大統領は、「アンゴラ：地域統合及び発展」と題した講演を行った他、南ア・アンゴラ・ビジネスフォーラムも開催された。

●ムナンガグワ次期ジンバブエ大統領のズマ南ア大統領への表敬訪問

24日に次期ジンバブエ大統領に就任したムナンガグワ前副大統領は、同職を罷免された後滞在していた南アフリカからジンバブエに帰国する前に、ズマ大統領を表敬訪問した。両者は、ムガベ前大統領が、アフリカ大陸の独立運動、そして特に南アフリカにおける解放運動に多大な貢献を行ったことに対して、敬意を表した。

●ズマ大統領のEU-AU サミット出席

ズマ・南ア大統領はコートジボワールのアビジャンで開催された第5回AU-EUサミットに出席し、30日にスピーチを行った。スピーチの中でズマ大統領は、アフリカが直面する安全保障の問題や難民の問題に関して述べた。特にリビアにおける難民の境遇に対し強い懸念を表明し、アフリカ内の難民問題に関しても言及した。

3 経済

<経済指標>

●インフレ率

南ア統計局によると、10月の消費者物価総合指数(CPI)は4.8%、前月比0.3%減。物価指数は、平均で前月比0.3%増。運搬、食料、雑貨及びサービス分野で値段が伸び悩んだ。食料とエネルギー価格を除いた物価上昇率では、前年同月比4.5%減、これは2012年7月以来の低下。

●景況感

Absa Bankが発表した11月の購買担当者指数(PMI)は、48.6ポイント(前月比0.8ポイント増)を記録。先月に続き上昇し、これで4ヶ月連続で上昇、2017年5月以来最も高い数値となった。他方、依然として経済成長収縮を意味する50ポイントを6ヶ月連続で下回っている。

●製造業・鉱業生産高

南ア統計局によると、9月の製造業生産高は、前年同月比1.6%減。主な要因は、木材・

木製分野、製紙・出版・印刷分野で7.0%減、ガソリン・化学製品・ゴム及びプラスチック分野で2.5%減。更に、自動車・関連部品分野の生産高が0.3%減。

季節調整後生産高は、前月比0.8%減（8月は前月比0.3%増、7月は前月比1.5%増）。季節調整後生産高は、第3四半期で前期比1.0%増。製造業10部門中6部門での生産増となった。主な要因は、ガソリン。化学製品・ゴム及びプラスチック分野で3.7%増、鉄鋼、非鉄金属製品、鉄製品予備電気機器で2.4%増及び自動車関連部品分野で1.6%増。

鉱業生産高は、前年同月比0.9%減。主なマイナス要因は、PGMsで8.3%減、鉄鉱石で7.5%減。他方、非金属鉱物で32.2%増及びマンガン鉱石で35.8%の生産増を記録。季節調整後生産高は、前月比7.0%減（8月は前月比6.0%増、7月は前月比0.5%増）。季節調整後生産高は、第3四半期で2.0%増。最大の要因はPGMsの生産増（1.2%増）。

●自動車販売台数

南ア自動車工業界（NAAMSA）によると、11月の総販売台数は49,754台と、前年同月比7.2%増を記録。そのうち、78.4%をディーラー販売、14.0%をレンタカー販売が占めている。

国内販売では先行きが不透明な経済情勢、低調な投資意欲を反映し伸び悩む結果となった。軽商用車、ピックアップトラック及びミニバスが前年同月比7.4%減を記録。他方、軽商用車では前月比より増加。中型及び大型トラックでも販売数は厳しく、前年同月比15.7%減。

輸出販売台数は前年同月比13.7%減。また、2017年の総輸出販売台数は、予想よりも下回る見込みとなった。主な要因は、先月に主要港及びトヨタ自動車製造工場があるダーバンを襲ったストーム被害による影響が挙げられた。

国内自動車販売台数は、経済情勢が芳しくない一方、過去6ヶ月間は健闘。2017年の総販売台数は前年比2.0%増となる見込み。世界経済の成長に伴って2018年にはさらに回復すると予想される。

<出来事>

●金融政策：政策金利の据置

23日、準備銀行は、前回9月の金融政策委員会から引き続いて政策金利を6.75%で据置くことを発表。カニャーゴ総裁は、この決定の主な背景に南アのインフレリスクが高まっていること等を挙げた。

エコノミストの中には、南アの経済成長が伸び悩む中、今回中銀が本年6月に続き更なる利下げにより景気刺激を行う貴重な機会を失ったと批判する向きもある。カニャーゴ総裁はこうした批判を十分認識しつつ、インフレ回避のため2019年末までに段階的に0.75ポイント政策金利を引き下げの可能性に言及した。

中銀の今後3年間の経済成長率及び消費者物価指数（CPI）の見通しも前回9月とほぼ同様で次とおり。（1）GDP成長率見通しは、2017年：0.7%、2018年：1.2%、2019年：1.5%、（2）CPI見通しは、2017年：5.3%、2018年：5.2%、2019年：5.5%。

●南ア信用格付の見直し

23日にFitch社、24日にS&P社及びMoody's社が南ア国債信用格付の見直しを行った。格付けの内容は次のとおり。（1）S&P社：ランド建国債の格付を投資適格の“BBB-”からジャンク級の“BB+”に引下げ。外貨建国債の格付をジャンク級“BB+”から“BB”にさらに一段階引き下げ。一方、格付引下げに伴い見通しは“negative”から“stable”に戻した。GDP成長率を2017年0.7%、2018年1.0%と予測。（2）Moody's社：外貨建及びランド建国債の格付を投資適格

級で最も低い“Baa3”（BBB-相当）に据置き。GDP成長率を2018年1.2%、2019年1.7%と予測。：見通しを“negative”から“review for downgrade”に変更。来年2月の予算案を見極め、来年2月24日までに見直しを行う。（3）Fitch社：外貨建及びランド建国債の格付をジャンク級の“BB+”に据置き。見通しも「安定的」で不変。GDP成長率を2017年0.7%、2018年1.6%、2019年2%と予測。

参考：今回の見直しに先立ち、本年3月の内閣改造の結果、（長期）外貨建国債の格付についてはFitch及びS&Pがジャンク級に引下げ、ランド建国債の格付についてはFitchのみがジャンク級に引き下げていた。これまで3社の中で一番楽観的な格付けをおこなってきたMoody'sは、今回、見通しを“negative”から“review for downgrade”とし、来年2月の予算を踏まえジャンク級への引き下げを強く滲ませた。

南ア政府（財務省及び大統領府）は今回の見直しを受け相次いで声明を发出。ジャンク級への引下げは経済にマイナスの影響を及ぼすとし、来年度予算で400億ランドを手当するよう努力する旨、及びズマ大統領が主導する高等教育無償化を段階的かつ持続可能な形で進めるようコミットする旨声明した。

今般、事前に噂されたような南ア国債が国際債券指標から削除され大規模に資本が流出するという事態には至らず、発表後もランドの対ドル相場も崩れなかった。

4 広報・文化

●映画「杉原千畝」の上映会及び講演

2日（於ヨハネスブルグ市内映画館）及び4日（於プレトリア大学講堂）、映画「杉原千畝」の上映会並びに杉原千畝に関する講演を実施。杉原サバイバーの子息による講演では、父親が杉原氏から2029番目に査証を受けたことや、父親から聞いた当時の状況について紹介。杉原氏から受けた恩は子の世代にしっかり語り継いでいくと述べた。映画上映後、ユダヤ人関係者のみならず南ア一般層からも、杉原氏の取った勇気ある行動を積極的に世界に発信すべきとの声が多数あったことから、今回のイベントの実施により、当地ユダヤ人コミュニティとの友好関係が深化するとともに、南ア一般層に対する知日派育成・対日理解促進に貢献した。

●第24回日本映画祭

本年で24年目を迎える本映画祭は、10月のケープタウンにおける開催に続いて、11月3日から5日にかけてヨハネスブルグにおいて開催され、ケープタウン同様、「すーちゃん まいちゃん さわ子さん」、「イヴの時間 劇場版」、「電人ザボーガー」が上映された。来場者からは「印象的だった」、「日本の文化は興味深い」といった声が寄せられるなど、いずれの作品も非常に好評であった。

5 警備

●クリスマスシーズンに向けた治安情勢

例年、クリスマスシーズンに向けて各種強盗、窃盗事件が増加する傾向にあり、南ア国家警察等治安機関は、ショッピングモールへの警察官の増強配置やパトロールカーによる市中の巡回強化などを行って警戒を強めている。しかしながら、11月中、車両で移動中の強盗や住宅侵入窃盗等の邦人被害が6件報告されている。

クリスマスシーズンに向けて、外出時は日頃以上に周囲を警戒すると共に、自宅を留守にする場合には、①ソーシャルメディアなどインターネット上に自らの行動予定等を開示しない、②信頼できる同僚・友人等に郵便物の回収、夜間照明の点灯を依頼する、③ホー

ムセキュリティ（機械警備）の作動を事前に点検するといった防犯対策が必要である。

●南ア国家警察長官の任命

22日、南ア国家警察長官に Khehla Sitole 氏が任命された。長官ポストには Riah Phiyega 氏が解任されて以降、長官代行が配置されていたところ、この度、約 2 年ぶりに正式な長官の任命となった。

新長官は、1986年に巡査 (Constable) として南ア国家警察のキャリアをスタートし、2016年からは警護局長を務めていた。Phiyega 氏以前にも正式配置の長官は存在したものの、いずれも警察部外からの任用であった。

新長官は、1995年にネルソン・マンデラ大統領によって任命された George Fivaz 氏以来の警察出身者で、経験豊富な人物とされ、正式な長官が配置されたことによる南ア国家警察の安定と新長官のリーダーシップ発揮による的確な犯罪対策が期待される。

●新たな合成麻薬の南ア上陸

フラッカと呼ばれる麻薬の乱用がダーバンで見られるようになった。フラッカはカチノン系合成麻薬であり、いわゆる危険ドラッグの一種としてアメリカやオーストラリア等で問題となっていた薬物である。フラッカを使用すると興奮、妄想、血圧上昇、怪力といった症状を呈し、人が正気を失い凶暴化して暴れ回るなど、まるでゾンビのようになることからゾンビドラッグとも呼ばれている。プレトリア、ケープタウンでもフラッカ使用の疑い例が報道されており、今後の拡散状況について注意が必要となる。危険ドラッグはフラッカに限らず、様々な種類のものが世界中で出回っているが、製造後の安全検査等は一切為されておらず、どのような症状を引き起こすか分からない極めて危険な薬物である。

また、製造された薬物はキャラクターを象ったお菓子のような外観のものもあり、路上販売の物や他人からもらった物を口にしないと注意が必要である。

(了)